

オウム真理教

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

オウム真理教 何が問題か!!

烏山地域オウム真理教対策住民協議会

会長 古馬 一行

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年、地下鉄サリン事件から30年、
住民協議会の活動も25年になりました。
25年も経つと世代が変わっており、多く
の人がオウム真理教の何が問題なのか
分からなくなってきました。

オウム真理教はチベット・インド辺り
で生まれた古代密教を下敷きにして
るようだ。平安時代、唐に渡って古代密
教の経典を持ち帰った弘法大師・空海
は、その中に「危険な教義」がある事は
わかっていた。それは、殺した方が本人
の為と考える時には殺してもいい、と
いう教えだった。だが、人間の世界で人
を殺せば平安時代でも殺人罪に当た
る。だから敢えて、弘法大師はその部
分に触れなかったが、オウム真理教は
その部分だけを最大限に活用した。オ
ウム真理教の歴史は殺人の歴史である

と言っています。修行中に死
んだ信者を焼却機で灰にして湖に捨て
た事を皮切りに、それからは敵対する
立場の人達に、集団で殺人を行つてい
く。その頃にはサリンよりも猛毒なV
Xガスを作っており、そのガスを液体に
して対象者にかけていたのである。更にそ
れからサリン製造へと発展する。

オウム真理教はソ連(現・ロシア)に
進出した。その頃のソ連は崩壊寸前で
お金さえ出せば何でも買える状態で、
サリンの製造工場一式と大型ヘリ
コプターを買って、上丸一色村(現・富
士河口湖町)に送った。大型ヘリは改造
して東京の上空から70トンのサリンを
撒く予定であった。しかし警察の強制
捜査が迫ることを察知して、急遽、東京
の地下鉄にサリンを撒いて、死者14人、
負傷者6500人という未曾有の大惨
事を起こしたのである。正に無差別大
量殺人事件である。

それから30年経った。

ある精神科病院に元オウム信者が入
院している。30年前に脱会したのだが、
普通には生活できない。一員普通の
だが話してみるとやはりおかしい。自

分で考えて行動する事が出来な
制された中で制限されて生きる事
心感を覚えるようだ。オウム真理
修行には、ヘッドホンをして、麻
声で、『修行をするぞ、修行をする
お布施をするぞ、お布施をするぞ』
何日も繰り返して聞かせるものが
私はこれを見た時、こんな事が修
なるのかと思いました。しかし、
を続けているうちに麻原の声と修
お布施がセツトで、これを続けな
はいけないと思うようになってし
目隠しをされて暗闇の中で、麻原
だけを聴いていると、何かの拍子
原の声を聴いただけで恐怖を覚
上がってしまう。これがマインド
コントロールだろう。

この様にして信者の精神を誦
せ、修行とお布施を続ける事を強
ていた。これが宗教と言えるのだ
か。オウム真理教に囚われた信者
が、果たして幸福と言えるのだ
事件に深くかかわった人たち
になり、またひどいそりと精神科病
暮らし人もいる。そうしたオウム
の実態を多くの人に知ってもら
と思つたのです。

このような実態を忘れてほし
し、知らない世代の人達にも伝
かなければならないと思つてお
今後も皆様方のご協力をお願
上げます。

写真資料展 のご案内

「パネルで振り返る地下鉄サリン事件(30年)」

実施期間 令和7年3月10日(月)～24日(月)
 内容 事件当時のパネルを展示
 場所 世田谷区役所東棟M B1階(半地下階)ホール、
 烏山区民センター・1階ホール
 主催 警視庁
 共催 烏山地域オウム真理教対策住民協議会

法務大臣と公安調査庁長官に要請

令和6年12月13日(金)、オウム真理教対策関係市区町連絡会(会長・近藤やよい(足立区長))は、鈴木馨祐法務大臣と田野尻猛公安調査庁長官に観察処分の期限撤廃や解散命令の規定など7項目の法整備の要請を行いました。

要請行動には、加盟している13の市区町とオウム対策議員連盟の国会議員・都

議会議員をはじめ、区議会議員、市議会議員や住民協議会の足立区、甲賀市と私達烏山が参加しました。

参加した住民協議会からは、地下鉄サリン事件から30年経とうとしている中、風化の現状や麻原の遺骨を引き渡した後の危惧、アシフやひかりの輸入のさらなる監視の強化など具体的な心配や要望が出ていました。



▲法務大臣に要請書を手渡し



公安調査庁長官との意見交換

第49回 抗議デモ・学習会を開催

令和6年11月9日(土)、烏山地域の町会・自治会に加え、衆議院、都議会、区議会の各議員も参加し、抗議デモと学習会を開催しました。

最初に烏山区民センター前広場にてシュプレヒコールをあげたのち、オウムの後継団体の一つであるひかりの輪の施設に向けてデモを行い、同施設前で抗議文を読み上げた後、投函しました。

区民センターホールでの学習会では、長年オウム真理教の犯罪

抗議文

地下鉄サリン事件から30年が経とうとしている。この事件で尊い14名の命が奪われ、6500名が負傷した。日本史上例を見ない無差別大量殺人事件である。その被害者への賠償金をオウム真理教は払わなくてはならない。3年前、オウム真理教犯罪被害者支援機構からの訴えで、10億2500万円の支払いが確定した。しかし、アレフは預金を隠し、財産を振り分けて支払う素振りもない。オウム真理教の歴史は、犯罪の歴史である。オウム真理教は、修行中に亡くなった信者を高温の焼却機に入れて灰にして処分し、敵対する人にVXガスを浴びせて殺傷を図った。坂本弁護士一家3人は殺害され帰らぬ人となってしまった。心を豊かにするはずの修行は、殺人の積み重ねだった。

上祐は何を指して、いまだにひかりの輪を運営しているのか。観察処分から逃れて、またオウム真理教を復活させたいと思っているのか。

こんな監視の厳しい所では、意図する活動も出来るはずもない。早く解散して他の信者を自由にしたらどうか。その為の協力は惜しまない。

我々住民協議会は、ひかりの輪がこの烏山にいる限り、監視活動を続け、オウム反対の声を上げ続けることを宣言する。

令和6年11月9日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会

会長 古馬 一行

被害者支援に取り組まれている中村裕二弁護士、被害者ご遺族として高橋シズエさん、假谷実さんが講演されました。

中村弁護士からは、オウム犯罪の経緯や、未然防止ができてきた背景の説明があり、サリン事件から30年を迎えようとする現在でも、資産隠しにより被害者補償は進まない一方で、観察処分等の様々な法的措置にも関わらず活動は続いており、今後も監視を継続していくことが重要なお話がありました。

また、高橋シズエさんと假谷実さんからは、ご遺族となった悔しさや怒り、被害者支援活動に取り組まれてこられた経緯や成果の説明があり、長い時間が経過し、世の中の関心が薄れてきている中、風化を止める為に連携していきたいとの発言がありました。

講演者の方々からは、本協議会が地域密着で長年活動を継続していることを評価して頂く発言が続き、今後も活動を継続していくを新たにしました。

また今回は、マスメディア (TV、新聞、通信社)の他、オウム事件に関心を持つ大学生も取材にきました。今後も情報発信を続けていきます。



＜学習会及び協議会活動への感想＞

～以下、学習会アンケートから一部抜粋～

【学習会への感想】

- * 継続して、オウム真理教への対策、抗議を住民が続けることの必要性を感じました。
- * 当時学生であり、はっきりとサリン事件の事も記憶していません。社会不安をかき立てられるとともに、地下鉄や電車に乗ることも恐怖を憶えた。この事件を起こした団体が解散されることなく今も活動していることに怒りを感じる。解散して欲しい。
- * 賠償金未払い、資産隠し、不報告など現教団もなお悪質性が根底に潜んでいることを知る事が出来た。貴重な活動を継続されているご遺族、弁護士はじめ関係者のご尽力を忘れてはいけないと感じた。
- * 今のひかりの輪の問題点について知りたかったが、まったく情報がなく残念だった。
- * オウムの起こした恐ろしい事件。そのことを風化させないことが再発防止の要だと思

いました。また、中村弁護士による事件の時の系列の振り返り、高橋シズエさん、假谷さんの声は良い学びになりました。

- * 30年ですか！風化させてはいけません。そのため何度聞いても聞き足りない良い内容でした。高橋シズエさんの協議会への言葉良かったです。継続と連帯ですね。
- * サリン事件から30年。烏山の対策住民協議会発足から24年。私も忘れそうになる。こうして定期的に学び直し、考える機会を重要です。ゲストの高橋シズエさんのこれまでのご活動、ご苦勞に敬意を表します。「信者は怠惰」という指摘は印象的でした。

【住民協議会への感想】

- * ひかりの輪が移住してきたことにより活動が始まり、24年間の活動は並大抵では無いと思います。ありがとうございます。
- * 次世代にきちんと伝えていく大切さ、住民協議会の果たす役割は大きいと思います。

* 今日のシュプレヒコールは良かった。商店街で通行人、買い物客たちに、烏山にひかりの輪の施設があること、その解決のためデモ行進であることをもっとたくさんアピールするとともに意味あるものになると思います。

- * デモの度に「忘却」との闘いを感じます。事件とカルト宗教の活動実態をいかに正しく伝えていくか、私たちの絶え間ない活動が必須です。
- * 毎日の見張りにどの程度の効果があるのかな!? もう少し直接的なアプローチはできないものか。

このアンケートを通じて私達の活動に賛同して下さる方が新たに仲間になって下さいました。継続することの意義を深く感じています。これからも住民協議会の活動にご支援、ご協力をよろしく願います。

協議会ホームページアドレス <https://www.karasuyama-kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

